

質問

村職員採用に 社会人(既婚者)枠を設けては

村長



【河村良満議員】

村出身者の応募がない状況であり
検討する



職員による避難所設営訓練(10月1日)

村長 各集落、自主防災会、
関係機関などと連携した訓
練を想定していたが、コロ
ナ禍で来年に延期となつた。
様々な災害を想定した避難

所設営、移送訓練、職員の
かけつけ訓練も検討してい
く。

河村議員 災害はいつ起こ
るかもわからない。村外か
ら通う職員も増えてきた。
通行不能によりかけつける
ことのできない職員も出て
くる、災害発生時にかけつ
け可能な職員は30人ほどで、
これで対応できるか不安を
感じる。職員のかけつけ訓
練を年1回実施すべきと考
えるがいかがか。

移住・定住対策 について

河村議員

この5
年間、村への移住・
定住者は何人か。

また、昨年の移住
定住相談者は何人
か。村の取組は積
極的でない。そこ

で、村職員を採用
する場合、3分の
1以上は帰郷を考
えている方や村で
働きたい村外の方
を採用する社会人
枠とし、既婚者や
子どものいる方を
採用することを提

河村議員 現在、村の作業
員6人で道路補修等の作業
を行っている。作業の格好
を見ると、各自で用意し、
安全靴も履いていないよう
に見える。安全面に問題は
ないか。必要な用品は支給
や貸与するべきでないか。

村長 職員の被服等につい
ては規程が定められている
が、指摘のとおり、労働者
の安全衛生管理を考えた場
合、近年の異常ともいえる
気象条件の中で安全に作業
できる環境を提供できるよ

河村議員 できれば、特定
空家の解体費用や村道の新
設費用など、国県の補助対
象とならないような事業に
使う考えはないか。

村長 寄付する方に寄付金
の使途を選ぶ項目があり、
話があつた事業に使えるも
のについては検討したい。

案する。

う検討する。

ふるさと納税、寄付金 の活用について

河村議員

以前にも申し上
げたが、仲介サイトを増や
すとさらに寄付額が増える。
返礼品も村内業者のみにす
るべきと思っている。現在
かなりの額の寄付金が残っ
ている。この寄付金の使途
は。

村長 行政を窓口とした移
住者は地域おこし協力隊の
採用は新卒者及び社会人を
募集しているが、近年は村
に住所のある方、村出身者
の応募がない状況となつて
いる。既婚者の採用枠を別
個に設けることは検討する。

質問

実態に合わせて職員定数の見直しが必要ではないか

村長



【伊藤秀明議員】

現状とかけ離れているので

条例の改正を検討する

村長 職員の定数見直しは、条例と実態が大きくかけ離れているので、現状に合わせて条例の改正を検討する。

職員に対しては、引き続き接遇の徹底を図る。杉風荘に派遣されている職員は5人が戻つてくる。

ため引き止める状況になかつた。できるだけ村に住んで働いていた、だけるよう環境整備したい。

新型コロナウイルス関連と移住定住対策について

伊藤議員 男女平等の実現を目指しており、女性管理職も必要と思われるが。

村長 いろいろな形で対応していく。

伊藤議員 村職員が村外へ転出する事例が多くなっている。転出前に相談はなかったのか。引き止めなかつたのか。

村長 事前協議がなかつた

村長 ワクチン接種率は8月末で対象者の約88%が接

村職員定数の見直しと職員の資質向上について

伊藤議員

杉風荘の派遣職員何人かが復職すると思われる。職員定数を現状に合わせて条例改正し、適材適所への配置と資質向上に努めてもらいたい。村外からの職員が増えている。来庁者を歓迎する意識を持ち、住民が快く感じる対応に村長自身も含め改善する対策は。

種を終えた。今後は希望者に対しても北秋田市と調整して接種をしてもらう。抗体が陽性であつた。商品券は受付開始時に申請が集中したため事務処理に時間を要したが、その後順調に進んでいる。移住定住は、やれることは何でも検討して進めていきたい。

村長 二つの計画は策定方針が違う。皆伐は再造林も含めると赤字となる。それとの条件によって計画するものであり、間伐と並行して事業化することになると考えている。自伐型林業については、規模等も含めて可能かを検討する。

河川公園の整備は国県に要望する。山ふじ温泉は、今年度に公募を予定している。大滝周辺整備は、できることから対応していく。

山林活用計画と観光関連について

伊藤議員 山林活用100年計画と特定間伐等促進計画の整合性は、コロナの影響で木材価格が高騰している。間伐から皆伐に方向転換する考えはないか。林業

伊藤議員 木材価格が高騰している今がチャンスであり、全国、世界を対象に公売してはどうか。これからは針葉樹だけでなく広葉樹も必要ではないか。

今年の植樹祭は中止か。

検査結果は、商品券発行事業については進んでいないように思われるが。コロナ禍は逆に移住者増加のチャンスもある。家屋、土地を無償提供するなど思い切った施策の考えは。

山林を無償で提供し、自伐型林業を推進する考えは。身近な観光スポットは河川公園であり、単独でも整備する考えはないか。山ふじ温泉の指定管理制度移行、大滝周辺整備はどう考えて、いるのか。

村長 先人が苦労して造成した山林を赤字で処分するという状況は避けなければならぬ。針葉樹の方が二酸化炭素の吸収率が多いというデータがあるので、引き続き杉で進めていきたい。

今年の植樹祭は中止させていただきたい。

質問

空き野菜集出荷施設の利用は

村長



【武石辰久議員】

施設の目的に沿った対応を検討する

策と合わせて、村長の方策、
考え方を問う。

村の野菜集出荷空き施設 の活用策、農業振興策について

村長 農協による集出荷作業が行われなかつたことなどもあり、指定管理契約満了とともに使用されていなさい。有効活用を図りたいが、補助事業の制約もあり、目的外の使用ができない。老朽化も進み、修繕には多額の費用を要する。必要最小限の修繕を行なながら、制約の中で指定管理者の募集を行いたい。

武石議員 福館地区にある野菜集出荷施設は村が建設し農協が利用してきたが、村内での集出荷場所がなくなり、今年からは村に返却され、一切利用されていない。



今年から利用されていない集出荷施設

村長 利用希望者はあつた。冷蔵予冷庫があるので、秋に収穫した野菜を個人ごと

つて、生産者の意識と所得の向上につながるよう前向きに活用策を立てることが必要ではないか。

武石議員 今まで、内部は広大で、冷蔵予冷庫等も利用できると聞いており、有效地に活用するべきではないか。村の農業振興

武石議員 村長は3月の施政方針において、村の資源活用と雇用拡大に結びつけた水力発電の復活を述べた。民間でできない部分を行政が先行投資しながら民間の応援をすると言っている。現在までに事業者からの打診や要望はあつたのか。

村長 平成26年度に萩形ダム直下に完成した発電所に一定量の水が流れていることや、昔、大錠地区に民間の発電所があつて、この施設を再利用した水力発電ができる可能性を探り、村内雇用に繋げることができるとの方針である。

武石議員 県からも情報をいただいているが、送電線整備費用と売電収入のバランスを検討している。既存施設については、権利関係の調査を

に分けて保存などが検討できるのではないか。施設の目的に沿った対応が可能か検討する。

水力発電について

武石議員 村長は3月の施政方針において、村の資源活用と雇用拡大に結びかけるとはどのような形か。特に夏場は水不足が心配されるが大丈夫なのか。

武石議員 村長の言う行政が先行投資しながら民間を応援するとはどのようなことか。また、雇用拡大に結びかけるとはどのような形か。特に夏場は水不足が心配されるが大丈夫なのか。

進めている。複数の事業者が先行投資しながら民間を応援するとはどのようなことか。また、雇用拡大に結びかけるとはどのような形か。特に夏場は水不足が心配されるが大丈夫なのか。

今後の定例会日程予定表

区分	会議名	開催年月日	曜日	会期 (休会を除く日数)
12月定例会	議会運営委員会	令和3年11月30日	火	3日
	開会	令和3年12月7日	火	
	閉会	令和3年12月9日	木	



新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、昨年同様、全国や秋田県町村議会議長会主催で行っていた研修会等がすべて中止となりました。今年度は全国町村議会議長会のオンライン研修を受講する形で、独自の研修会を開催しました。

独自に議員研修会を実施しました

7月28日(水)

議会の動き

かみこあに保育園を視察

8月20日(金)

保育園建設計画が進む中、現園舎の問題点について理解を深めるため視察を行いました。職員が創意工夫して保育を行っているものの、建設当時とは保育方針の変化による保育室の不足、給食室の不足など、安全で良好な保育環境を保つのが難しくなっています。



小阿仁川水系対策委員会流況調査（佐藤真二委員長）は、北秋田市の委員及び県の関係職員と萩形ダムサイトから阿仁川合流点まで5箇所の流況調査を行いました。



なつてきている現状の説明を受けました。

小阿仁川水系対策委員会流況調査

8月26日(木)

「5人、0」、「2人、0」、「4人、0」、この数字は令和3年3月定例議会、6月定例議会、9月定例議会と委員会の村内傍聴者の人の数です。

本会議や委員会の内容は議会広報に掲載しますが、限られた紙面では詳細をお伝えすることができません。村民の皆様、是非、本会議や委員会を傍聴いただき、村当局と議員の討議を直接見て聞いていただきたいと思います。

(河村 記)

議会を傍聴しながら
みませんか

次回の定例会は12月7日開会予定です。9月定例本会議の傍聴者は5人でした。

編集委員

委員長 北林義高
副委員長 河村良満
委員 齊藤秀明
佐藤真二
鉄子



編集後記